Powered by Vivliostyle

文体操舵録

-Logbook -for -Craft -Steering

『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021) の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

切の関係がありません。

目
次

目次	問一4a 三人弥银定②??視点と語りの声4??
	問一4b 三人称限定①??
自分の文のひびき ・・・・・・・・・・・??	問三4b 傍観型の語り手・・・・・・??
序	視点と語りの声5・・・・・・・・・・??
問一1??	問一5a 三人称限定②??
問二1??	問一5b 三人称限定①??
視点と語りの声2・・・・・・・・・・・??	問三5b 傍観型の語り手・・・・・・??
問一2a 三人称限定②??	視点と語りの声6・・・・・・・・・・・・??
問一2b 三人称限定①??	問一6a 三人称限定②??
問三2b 傍観型の語り手・・・・・・・??	問一6b 三人称限定①??
視点と語りの声3・・・・・・・・・・・・??	問三6b 傍観型の語り手・・・・・・・??
問一3a 三人称限定②??	
問一3b 三人称限定①??	
問三3b 傍観型の語り手・・・・・・??	

11 9b	問一9b 三人称限定①??	問一9a 三人称限定②??	視点と語りの声9・・・・・・・・・・??	問三8b 傍観型の語り手・・・・・・??	問一8b 三人称限定①??	問一8a 三人称限定②??	視点と語りの声8・・・・・・・・・・・??	問三7b 傍観型の語り手・・・・・・??	問一7b 三人称限定①??	問一7a 三人称限定②??	視点と語りの声7・・・・・・・・・・・??
三12b 傍観型の語り手	問一12b 三人称限定①??	問一12a 三人称限定②??	視点と語りの声12?	問三11b 傍観型の語り手??	問一11b 三人称限定①??	問一11a 三人称限定②??	視点と語りの声11??	問三10b 傍観型の語り手??	問一10b 三人称限定① ??	問一10a 三人称限定②??	視点と語りの声10??

問三18b 傍観型の語り手??	問三15b 傍観型の語り手??
問一18b 三人称限定①??	問一15b 三人称限定① ??
問一18a 三人称限定②??	問一15a 三人称限定②??
視点と語りの声18??	視点と語りの声15??
問三17b 傍観型の語り手??	問三14b 傍観型の語り手??
問一17b 三人称限定①??	問一14b 三人称限定① ??
問一17a 三人称限定②??	問一14a 三人称限定②??
視点と語りの声17??	視点と語りの声14?
問三16b 傍観型の語り手??	問三13b 傍観型の語り手?
問一16b 三人称限定①??	問一13b 三人称限定① ??
問一16a 三人称限定②??	問一13a 三人称限定②??
視点と語りの声16??	視点と語りの声13?

問三20b	問一20b	問│20a	視点と語り	問三19b	問一19b	問 19a	視点と語り
傍観型の語り手?	三人称限定① ??	三人称限定②??	の声20??	傍観型の語り手?	三人称限定① ??	三人称限定②??	の声19??

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

文体操舵録

自分の文のひびき

み、 だ合評になります。本文の後に置く場合は合評への その場合、本文が始まる前に書き手が意図を説明す すことをセットとした合評会の設計もあります [1] レスポンス、 る紙面を設ければ、参加者は予断をもって文章を読 の解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出 いますが、 書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われて その意図が達成されたかという観点で突っ込ん ワークショップの本によっては美術展示 読み手への答え合わせになるでしょう

か。

章

の第一

問

手探りで何も考える余裕がなかったのが正直なとこ 第二問とやっている間はとにかく 革の、苛立ちを毎日みたいにぶつけた日記と、 て話せる台本を作っているのかも。 山引きながら、なんとか のに向いた環境じゃないんだけど。取り消し線を沢 開く羽目になっている。どう考えても、 を向いて、鞄を開けて、こうやって新しいノートを に、塔にひっかかったままの焦げた気球がいつにな っても小さくならない。だから目を逸らすように下

ろです。

問一 1

置から動かないくらいだ。遠ざかっているはずなの て、幌馬車がガンガン跳ねても回、 きなかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎ 立ち去るころになって、あの子に大したことがで 胃だけは同じ位

上に、 [2] キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以 金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやす

writing workshop" (F. R. Chavez, 2021)など

anti-racist writing workshop the anti-racist

文体操舵記録

「いい思い出になった」っ

何かを書く

鞄に詰まった黒

市長

サが始めて熱気球を打ち上げたときのことは。
 サが始めて熱気球を打ち上げたときのことは。
 中の手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすの手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはまりが始めて熱気球を打ち上げたときのことは。

▼ 問二1

向かう弧になる。龍紗が吐き出した水は、こんどは 内かう弧になる。龍紗が吐き出した水は、こんどは 大面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。かたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床 水面を叩いては緩んで広がった。より坂のままである。 隣島への繋ぎ橋はまだ、上り坂のままである。

ような赤とも黄とも緑ともつかない。

水の纏う色ではない。

生きた珊瑚の浮き上がる

つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、

白蛟が見たことのな

空気の中で育

.色と形で手招きするように揺れていた。 隣島に中

見下ろすなら、白と灰でない濃淡を認めるだろう。 色あせていた。 がらんどうの島を見上げれば、死んだ珊瑚も同然に びうつろになれば、島は空気に招かれて浮き上がる。 出されて、混ざりあっては新しい色を得る。 まだ空洞のはずである。中身は白蛟たちの島に吐き 整えては橋の上、隣島への道を渡る。その内側は も白蛟の子は痛みによろめき、まろびながらも肢 けたが、閉じた龍紗が下肢を保護していた。 蛟を空気は支えない。床板は白蛟のを強かに打ち付 橋桁を濡らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白 水面近くの白藍でも、 いま空気の側から、 深みの溶けていく紺青でもな 坂を登り切って それ ひとた

い。白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふちにある。白蛟の、ましてや子ひとりの重さでは沈むま身が戻り、橋が下り坂になるのはずっと先のはずで

かけた。

視 点と語 りの 声 Ś

2 a 三人称 限定①

くなっていく。 う唸りに重なって、 に突き刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大き ムみたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんとい 周期的に繰り返す。メトロノー

ば。

通り抜ける。 ふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが に向かって歩いていく。 に駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空で 列の先では、男がトランポリンに向かって小走り 隣のマットレスに着地して、男は出口

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 する金属の半円リングをジャンプして通り抜 悠にはまだ信じられない。

> 悠もそっちへ行きたかった。弟の手前でさえなけれ て、バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。 対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げ 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、 ときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。 いたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆ける して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだ ゅんと風を切る音がずっと右から下から左から―― でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅 列

り続けるのを見た。 ける。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめ そして膝に足にマットレスの感触

絶

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

然としていられるの? もしも転んだりして当たったら。どうしてみんな平 でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一2a 三人称限定②

らずれると、、 るくる向きを変えないし、リングも一本、それも半 く。このジャイロスコープモドキは本物みたいにく ム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞ でも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列か 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏から 綿シャツの背中の向こう側にフレー

る。啓は駆けだしていた。 を遮るシャツの背中が減る。 トランポリンのばねで高くジャンプする。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。 浮遊感

と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内

転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだっ

プよりも、

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ずっと大きい。半円のフレームが一

口

分だけだ。

た。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

を伸ばして向こう側を見ようとする。 から知っていた。仕方ないので列から動かずに、 ときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験

まわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

啓は考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろう 球はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

か ?

装置が遮られずに見え

文体操舵記録 13

次の人までの期間限定だけど。 側でレンズがきらきらしている、その全部がコマ送 りで感じられる。バリアってこういうことなんだ。

に向かって、 と目が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉 という柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん 啓は口をとがらせる。早く出口行こう

る。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 2 a 遠隔型 の語り手

球儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差 地

し向

大縄跳びに近い。 これ、毎分回転4~48の範囲で回転している。こかい5メートルに設置された軸受けで水平に保 イクルキャプチャ©は、 へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるのを 図式としては

> げる。アーチ内側 置を補正し、カメラ映像から三次元形状を再構成す 構成圏内》に突入する際の速度から映像中の重心位 枚の人体を撮像する。サイクルキャプチャ©は そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上 の高速度カメラは一回転で300 죆

終えて出ていく。 年齢制限を超えたばかりの子供たちも、 る。 ズメント施設においてはほぼ必須の設備と化してい ず、《生身のような没入感》をうたうVRアミュー に人を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さ 当然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度 (をして回転する銀の大縄へ跳びこみ、 スキャンを 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れ 何事もない

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近るには少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっな利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのがな利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのがな利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのが

あった異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情の

るのは情報の整理がかなり大変だと思いました。ことを主目的とした場合、子供の視点を通して伝えの通りだと思います。未知の情報を読者に提示するた)という評をわりといただいた実作で、それはそいうのが問一段階では取りにくい(問二でわかっいうのが問一段階では取りにくい(問二でわかっ

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

・ 問三 2a 傍観型の語り手

・ にも思えたかもしれない。一睡もできなかったけいでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけんど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。

一日の予定もたたないだろう。とはいえ、私のようーズメントパークに入れずに門前払いされては今日に威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミュ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私

ているのと同じものだ。

文体操舵記録

15

な雇われ保安員に彼らを追い出すような権限はない。

潰れて女の子が倒れていた。反射的に支給のレシー バーに手が伸びるが、 ちら側を振り返ると、 ちらの大掛かりな旧式スキャナの電源を入れる。 同シフトの高橋さんに目配せをしてドアを開け、 しき男の子と一緒に歩いていた。 ンを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、 てくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそ る目立たないドアに向かって親子連れを先導した。 させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にあ らして赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心 少し時間がかかりますが、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻っ 安堵した親が子供に声をかけ、 マットレスにカエルのように 救護センターへのホットライ という前置きして告げ 子供は泣き腫 緒に来たと思 そ

問四 2 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラ

アミューズメントパークの園内である。 フルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既に 銀の半円リングが回っている。

れは非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き から、アトラクションの一部と言えなくもない。そ その回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

活では目にかかれないものだ。 し身をデータ世界に送る。その動き自体が、 飛び込んだ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメン その現 日常生

して、

半円リングに並んだカメラがきらきらと照明を反射 の不思議の国、飾り立てられた非日常への門。 立てる。虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先

銀の

施設では実際に体を動かす機会は多くない。この

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

そが人しでいく子と呆牙責が見子っている。皆み大きなアトラクションであったかもしれない。 ジャンプして飛び込むという動きは、たしかに一番

半日はメンテに時間を取られる。保安員が指導され 敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラ にかすってレンズを汚しでもしたらそのスキャナは い大人達は、 た子供達や、 グの描く球の中央を通る。しかし時折、 を補正するのでだいたいの人間はきれいに半円リン 込み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度 の客を捌く。 るかぎりスキャナの安定稼働時間を延ばして、沢山 られた複数点カメラでスキャンデータを補正するの 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み 多少変なポーズで飛び込もうがデータ構築を失 るのは、 リングの外縁に近付いてしまう。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りな そのためにはスキャナを怖がる子供、 そのような事態を避けることだ。 勢いあまっ でき 並べ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにに別室へ案内することも含まれる。うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短

ペアで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝して「わざわざこちらまでいらして頂きない。サイクルキはないので、広告用の園内写真もない。サイクルキが、それは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡がエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が

上げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を

おります」

17 文体操舵記録

やつれた線を隠しきれてはいない。

「当日の様子を話していただけますか?」

無理もない。高橋という名の元従業員は、エントランスのスキャナールームとレセプションの両方を担当していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのみ割り当てられているが、事故が起きた時のよの応答者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出た。

は一致していた。
は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害もつれ込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオもつれ込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオもつれ込むだろう。高橋も唐木田がこの場で有効をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効という。

キン技術はかなり高速化しているので特段優位性も がの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触 させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべき がの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触 はの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触

問一 2b 三人称限定①

なさそうです。

くなっていく。 に突き刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きムみたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳ムみたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんとい

に駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空で列の先では、男がトランポリンに向かって小走り

に向かって歩いていく。通り抜ける。隣のマットレスに着地して、男は出口ふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。けることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜

ば。 悠もそっちへ行きたかった。弟の手前でさえなけれて、バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げ対やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げ終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶

の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息ときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列いたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるでも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅

そして膝に足にマットレスの感触。ゅんと風を切る音がずっと右から下から左から――を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひ

ける。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつ

でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。り続けるのを見た。

像と、内側にずらりと並んだレンズ ―― あんなの、

然としていられるの?もしも転んだりして当たったら。どうしてみんな平

◆ 問一 2b 三人称限定②

ム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞらずれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーでも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列か部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏から

19 文体操舵記録

るくる向きを変えないし、リングも一本、それも半 く。このジャイロスコープモドキは本物みたいにく

分だけだ。

た。 転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだっ ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一 でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ 口

から知っていた。 ときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう を伸ばして向こう側を見ようとする。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 仕方ないので列から動かずに、 首

啓は考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろう 球はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 まわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

か?

を遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見え 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。 視界

る。啓は駆けだしていた。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感

りで感じられる。バリアってこういうことなんだ。 側でレンズがきらきらしている、その全部がコマ送 と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内

次の人までの期間限定だけど。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

に向かって、啓は口をとがらせる。早く出口行こう と目が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉 という柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 2b 遠隔型 の語り手 ょ。

地

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを持され、毎分回転4~48の範囲で回転している。し向かい5メートルに設置された軸受けで水平に保球儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差

年齢制限を超えたばかりの子供たちも、何事もないる。サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、ズメント施設においてはほぼ必須の設備と化していず、《生身のような没入感》をうたうVRアミュー

な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのがてジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難ることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっ急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやづく人間を検知し静止するよう設定されており、緊

終えて出ていく。

顔をして回転する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを

あった異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情の

主な仕事になっている。

当然ながら事故の可能性で物議を醸した。

だが一

度

に人を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さ

る

80

個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

21 文体操舵記録

るのは情報の整理がかなり大変だと思いました。に、という評をわりといただいた実作で、それはその通りだと思います。未知の情報を読者に提示するの通りだと思います。未知の情報を読者に提示するとを主目的とした場合、子供の視点を通して伝えればの回ってる機材が何か、とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、と

問三 2 b 傍観型の語り手

のか、 この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 ているのと同じものだ。 表情は、 とでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけ リズミカルに叩きつけられるのは、 前面のシートを蹴りつけ続け 飛行機内のことを思い起こさせる。 れど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな ゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。 日ぶり十六件目 その子供は届かない床に地団駄する代わりに 今子供をなだめようとしている親が浮かべ 私は部屋に響き渡るぎゃんぎ 背中を椅子越しに まあマッサージ 何が気に障った いつかの

ちら側を振り返ると、マットレスにカエルのように てくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそ ちらの大掛かりな旧式スキャナの電源を入れる。 同シフトの高橋さんに目配せをしてドアを開け、 させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にあ る目立たないドアに向かって親子連れを先導した。 らして赤くなった目でこちらを見上げてくる。 ると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫 な雇われ保安員に彼らを追い出すような権限はない。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻っ 少し時間がかかりますが、という前置きして告げ そ

しき男の子と一緒に歩いていた。 ンを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、 バーに手が伸びるが、 緒に来たと思

潰れて女の子が倒れていた。反射的に支給のレシー

1

日の予定もたたないだろう。とはいえ、私のよう ズメントパークに入れずに門前払いされては今日 に威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。アミュ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓 救護センター へのホットライ

エントランスは殺風景で、 問四 2b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラ

アミューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。 な電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既に

から、 半円リングに並んだカメラがきらきらと照明を反射 の不思議の国、飾り立てられた非日常への門。 立てる。 れは非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き アトラクションの一部と言えなくもない。そ 虹をくぐった先の魔法の国、 霧を抜けた先 銀の

し身をデータ世

界に送る。その動き自体が、

施設では実際に体を動かす機会は多くない。この では目にかかれないものだ。VRアミューズメン

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだ 飛び込んだ大人の子供のスキャンし、 その現 られた複数点カメラでスキャンデータを補正するの い大人達は、 た子供達や、

大きなアトラクションであったかもしれない 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 み

ジャンプして飛び込むという動きは、たしかに

を補正するのでだいたいの人間はきれいに半円リン 込み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度

グの描く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまっ

リングの外縁に近付いてしまう。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りな

並べ

ているのは、 半日はメンテに時間を取られる。保安員が指導され にかすってレンズを汚しでもしたらそのスキャナは 敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラ の客を捌く。 るかぎりスキャナの安定稼働時間を延ばして、沢山 多少変なポーズで飛び込もうがデータ構築を失 そのためにはスキャナを怖がる子供 そのような事態を避けることだ。

一番

うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短 に別室へ案内することも含まれる。

ペアで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のために

唐木田がこの場所を選んだ理由だった。 時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが が、 ャプチャの導入事例としてカタログには載っている はないので、広告用の園内写真もない。サイクルキ 黒ずんだ枠となって残っている。アトラクションで エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が それは実際に運用される前の状態であった。当

来事だった。

上げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、 おります」 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝して 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を

は 一

やつれた線を隠しきれてはいない。

たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出 第一応答者は彼女だったのだ。もう一人の保安員 担当していた。当時のシフト表ではスキャナールー ランス のスキャナールームとレセ プションの両方を ムにのみ割り当てられているが、事故が起きた時の 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。高橋という名の元従業員は、エント

は避けたかった。少なくともその点で、二人の利害 もつれ込むだろう。 をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効 な証言を引き出すことができなければ、 まだサイクルキャプチャの開発元と、 致していた。 高橋も唐木田も、 そのシナリオ あと数年は 事故の責任

キン技術はかなり高速化しているので特段優位性も故の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触故の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触故の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触なの事が念頭にありました。回転体に人間を接触なの事が、書いているときは過去の回転ドア事

なさそうです。

視点と語りの声 3

一 3 a 三人称限定①

くなっていく。 ムみたいに正確で、 に突き刺さる。 う唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんとい 行列を進んでいくたびに、音は大き テストのときの秒針みたいに耳 周期的に繰り返す。メトロノー

ば。

通り抜ける。 ふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが に向かって歩いていく。 に駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、 列の先では、男がトランポリンに向かって小走り 隣のマットレスに着地して、男は出 中空で \Box

> 悠もそっちへ行きたかった。弟の手前でさえなけれ て、バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。 対やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 挙句両親もスタッフも手を上げ

いたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆ける して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだ でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅

を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、 ときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列 ゅんと風を切る音がずっと右から下から左から V

り続けるのを見た。 ける。悠は口を引き結び、 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめ 振り向いて円リングが回

そして膝に足にマットレスの感触。

ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

然としていられるの? もしも転んだりして当たったら。どうしてみんな平 でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 3 a 三人称限定②

分だけだ。 らずれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレー るくる向きを変えないし、リングも一本、それも半 く。このジャイロスコープモドキは本物みたいにく ム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞ でも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列か 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏から

転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだっ プよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一 でも—— 啓が見たことのある本物のジャイロスコ П

た。

を伸ばして向こう側を見ようとする。 から知っていた。仕方ないので列から動かずに、首 ときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こうい 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 う

啓は考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろう 球はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 まわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

か ?

る。啓は駆けだしていた。 を遮るシャツの背中が減る。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。 装置が遮られずに見え

と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内

次の人までの期間限定だけど。 りで感じられ 側でレンズがきらきらしている、その全部がコマ送 . る。 バリアってこういうことなんだ。

ょ。 という柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉 に向かって、 と目が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん 啓は口をとがらせる。早く出口行こう

る。

問二 3 a 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

地

持され、 し向 球儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 大縄跳びに近い。 これ、毎分回転4~48の範囲で回転している。こかい5メートルに設置された軸受けで水平に保 イクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるのを 図式としては 差

> 枚の人体を撮像する。 げる。アーチ内側の高速度カメラは一回転で300 置を補正し、 構成圏内》に突入する際の速度から映像中の重心位 そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上 カメラ映像から三次元形状を再構成す サイクルキャプチャ©は 400 《再

ず、《生身のような没入感》をうたうVRアミュー 終えて出ていく。 顔をして回転する銀の大縄へ跳びこみ、 年齢制限を超えたばかりの子供たちも、 に人を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さ 当然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度 ズメント施設においてはほぼ必須の設備と化してい 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体 サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れ スキャンを 何事もない は

る。

29

な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのがることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がっるにとは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がったが、間を検知し静止するよう設定されており、緊

あった異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情の

主な仕事になっている。

るのは情報の整理がかなり大変だと思いました。ことを主目的とした場合、子供の視点を通して伝えの通りだと思います。未知の情報を読者に提示するいうのが問一段階では取りにくい(問二でわかっいうのが問一段階では取りにくい(問二でわかっい)のが問一段階では取りにくい(問二でわかった)となるぶんぶん回ってる機材が何か、と

問三 3a 傍観型の語り手

表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべた。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうなれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうない。

一日の予定もたたないだろう。とはいえ、私のようーズメントバークに入れずに門前払いされては今日に威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミュ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私ているのと同じものだ。

な雇われ保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ちらの大掛かりな旧式スキャナの電源を入れる。 同シフトの高橋さんに目配せをしてドアを開け、 る目立たないドアに向かって親子連れを先導した。 させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にあ らして赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心 ると、安堵した親が子供に声をかけ、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻っ 少し時間がかかりますが、という前置きして告げ 子供は泣き腫 そ

バーに手が伸びるが、 潰れて女の子が倒れていた。反射的に支給のレシー しき男の子と一緒に歩いていた。 ンを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、 ちら側を振り返ると、マットレスにカエルのように てくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそ 救護センター へのホットライ 緒に来たと思

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

くない。

エントランスは殺風景で、 問 四 3a 潜入型 出口ドアから覗くカラ 一の語 り手

から、 半円リングに並んだカメラがきらきらと照明を反射 立てる。虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先 れは非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き アミューズメントパークの園内である。 フルな電飾のような愛嬌はない。 の不思議の国、飾り立てられた非日常への門。 その回る動きも、 銀の半円リングが回っている。 アトラクションの一部と言えなくもない。そ すでに入場料を払っているのだ しかしそこは既に 銀の

日常生 その現

活では目にかかれないものだ。VRアミューズメン し身をデータ世界に送る。その動き自体が、 して、飛び込んだ大人の子供のスキャンし、

施設では実際に体を動かす機会は多くない。この

大きなアトラクションであったかもしれない。ジャンプして飛び込むという動きは、たしかに一番

半日はメンテに時間を取られる。保安員が指導され 敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラ られた複数点カメラでスキャンデータを補正するの にかすってレンズを汚しでもしたらそのスキャナは い大人達は、 た子供達や、 グの描く球の中央を通る。しかし時折、 を補正するのでだいたいの人間はきれいに半円リン 込み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度 の客を捌く。 るかぎりスキャナの安定稼働時間を延ばして、沢山 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 多少変なポーズで飛び込もうがデータ構築を失 るのは、 リングの外縁に近付いてしまう。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りな そのためにはスキャナを怖がる子供、 そのような事態を避けることだ。 勢いあまっ でき 並べ み

に別室へ案内することも含まれる。うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短

ペアで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が

マニュアルでは、

別室扱いの客が出

た時のために

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してはないので、広告用の園内写真もない。サイクルキが、それは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。里ずんだ枠となって残っている。アトラクションで見がされば、

上げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を

おります」

やつれた線を隠しきれてはいない。

担当していた。 第一応答者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、 ランス のスキャナールー ムとレセ プション の両方を たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出 ムにのみ割り当てられているが、事故が起きた時の 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。高橋という名の元従業員は、エント 当時のシフト表ではスキャナールー

来事だった。

なさそうです。 ャン技術はかなり高速化しているので特段優位性も 死ぬ以前に即禁止されるものです。現実の3Dスキ きだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべ 故の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事

問一 3b 三人称限定①

くなっていく。 に突き刺さる。 う唸りに重なって、 ムみたいに正確で、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんとい 行列を進んでいくたびに、 周期的に繰り返す。メトロノー テストのときの秒針みたいに耳 音は大き

に駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空で 列の先では、男がトランポリンに向かって小走り

は

一致していた。

は避けたかった。少なくともその点で、二人の利害

もつれ込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオ あと数年は

な証言を引き出すことができなければ、

をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効

まだサイクルキャプチャの開発元と、

事故の責任

に向かって歩いていく。通り抜ける。隣のマットレスに着地して、男は出口ふわりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが

悠もそっちへ行きたかった。弟の手前でさえなけれけることは、悠にはまだ信じられない。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。
なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。
なと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶悠と大して歳も違わないとない。

の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息ときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列いたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるして先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだして先導する。

ば

ける。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつそして膝に足にマットレスの感触。――のと風を切る音がずっと右から下から左から――を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひ

でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

り続けるのを見た。

然としていられるの? もしも転んだりして当たったら。どうしてみんな平像と、内側にずらりと並んだレンズ ―― あんなの、

問一 3b 三人称限定②

ム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞらずれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーでも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列か部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏から

分だけだ。 るくる向きを変えないし、リングも一本、それも半く。このジャイロスコープモドキは本物みたいにく

た。 転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだっープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回

を伸ばして向こう側を見ようとする。ときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験ときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験標を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

を遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見え家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界

か?

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感る。啓は駆けだしていた。

次の人までの期間限定だけど。りで感じられる。バリアってこういうことなんだ。側でレンズがきらきらしている、その全部がコマ送と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内

た。た向かって、啓は口をとがらせる。早く出口行こうと目が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉という柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉という柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

イクルキャプチャ©のアーチが回っている。地

啓は考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろう球はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

まわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる

ょ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

©のアーチが可っている。地 遠隔型の語り手

問二 3b

--- 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては持され、毎分回転4~48の範囲で回転している。サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを切るのを明で回転している。

一定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、

跳びに近い。

附帯設備の可動トランポリンは、

終えて出ていく。

る。 電を補正し、カメラ映像から三次元形状を再構成す構成圏内》に突入する際の速度から映像中の重心位枚の人体を撮像する。サイクルキャプチャⓒは《再校の人体を撮像する。サーダルカラは一回転で30~90

に人を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さ当然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度当然なののカメラを把持する金属アーチの回転体は、

顔をして回転する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを年齢制限を超えたばかりの子供たちも、何事もないる。サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、ズメント施設においてはほぼ必須の設備と化していず、《生身のような没入感》をうたうVRアミュー

あった異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情の

主な仕事になっている。

るのは情報の整理がかなり大変だと思いました。いうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)という評をわりといただいた実作で、それはそた)という評をわりといただいた実作で、それはそからのが問一段階では取りにくい(問二でわかっ

問三 3 b 傍観型の語り手

表情は、 とでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけ リズミカルに叩きつけられるのは、 前面のシートを蹴りつけ続け のか、その子供は届かない床に地団駄する代わりに 飛行機内のことを思い起こさせる。 この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 ているのと同じものだ。 れど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな ゃんとした泣き声の発生源に、 日ぶり十六件目。 今子供をなだめようとしている親が浮かべ 私は部屋に響き渡るぎゃんぎ 意を決して近づいた。 背中を椅子越しに 何が気に障った まあマッサージ いつかの

に威圧感を覚えたのか、 日の予定もたたないだろう。とはいえ、 ズメントパークに入れずに門前払いされては今日 近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私 彼らの顔が強張る。アミュ 私のよう

しき男の子と一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

ンを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思 バーに手が伸びるが、 潰れて女の子が倒れていた。反射的に支給のレシー ちら側を振り返ると、マットレスにカエルのように てくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそ ちらの大掛かりな旧式スキャナの電源を入れる。 同シフトの高橋さんに目配せをしてドアを開け、 る目立たないドアに向かって親子連れを先導した。 させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にあ らして赤くなった目でこちらを見上げてくる。 ると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫 な雇われ保安員に彼らを追い出すような権限はない。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻っ 少し時間がかかりますが、という前置きして告げ 救護センターへのホットライ 安心 そ

くない。

◆ 問四 3 b 潜入型の語り手

銀の半円リングが回っている。アミューズメントパークの園内である。フルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にエントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラ

から、 活では目にかかれないものだ。VRアミューズメン 半円リングに並んだカメラがきらきらと照明を反射 立てる。 れは非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き し身をデータ世界に送る。その動き自体が、 の不思議の国、飾り立てられた非日常への門。 その回る動きも、 アトラクションの一部と言えなくもない。そ 飛び込んだ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 すでに入場料を払っているのだ 霧を抜けた先 日常生 その現 銀の

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み大きなアトラクションであったかもしれない。ジャンプして飛び込むという動きは、たしかに一番

られた複数点カメラでスキャンデータを補正するのい大人達は、リングの外縁に近付いてしまう。並べた子供達や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りなた子供達や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りなた子供達や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りな飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み

の客を捌く。そのためにはスキャナを怖がる子供、るかぎりスキャナの安定稼働時間を延ばして、沢山ているのは、そのような事態を避けることだ。でき

半日はメンテに時間を取られる。

保安員が指導され

にかすってレンズを汚しでもしたらそのスキャナは敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラで、多少変なポーズで飛び込もうがデータ構築を失

施設では実際に体を動かす機会は多くない。この

39

に別室へ案内することも含まれる。 うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短

ペアで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のために

唐木田がこの場所を選んだ理由だった。 時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、 が、 ャプチャの導入事例としてカタログには載っている はないので、広告用の園内写真もない。サイクルキ 黒ずんだ枠となって残っている。アトラクションで 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝して エントランスは殺風景で、 それは実際に運用される前の状態であった。当 撤去された機材の跡が

上げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を

は

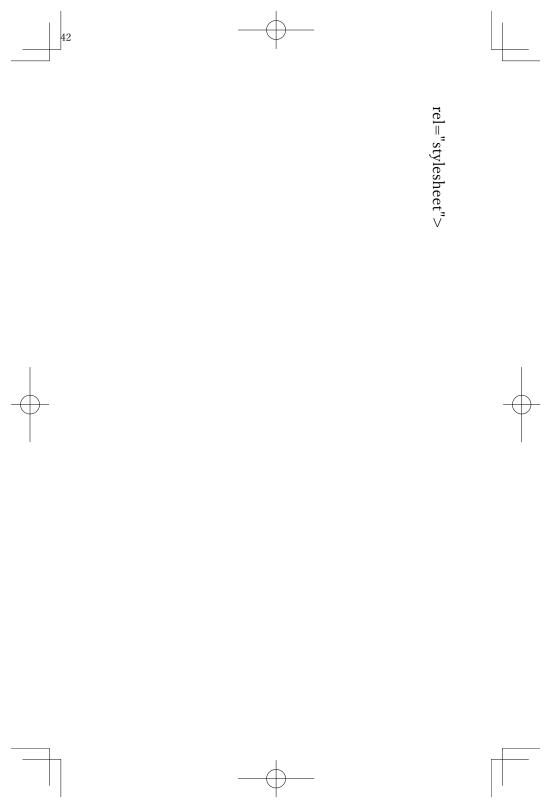
おります」

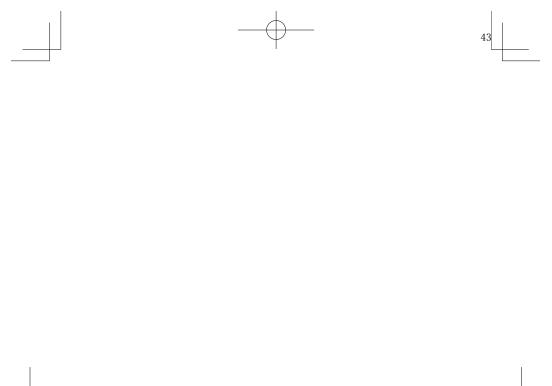
やつれた線を隠しきれてはいない。 「当日の様子を話していただけますか?」

担当していた。当時のシフト表ではスキャナールー ランス のスキャナールームとレセ プションの両方を 無理もない。高橋という名の元従業員は、 エント

来事だった。 第一応答者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、 ムにのみ割り当てられているが、事故が起きた時の たしか宮垣といったかが部屋を外しているときの出

は避けたかった。少なくともその点で、二人の利害 もつれ込むだろう。 をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効 な証言を引き出すことができなければ、 一致していた。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、そのシナリオ あと数年は 事故の責任 会談ですが、書いているときは過去の回転ドア事 がの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触 させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべ きだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が 死ぬ以前に即禁止されるものです。現実の3Dスキ マン技術はかなり高速化しているので特段優位性も なさそうです。









文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

発行 Telecocoon, Ltd.

https://telecocoon.netlify.com

組版 vivliostyle-jppb

https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字があります。ご容赦ください。